

1. 調査報告概要表

作成日 平成22年1月8日

[認知症対応型共同生活介護用]

【評価実施概要】

事業所番号	2770901037
法人名	医療法人 祐生会
事業所名	グループホームみどりヶ丘荘
所在地	高槻市奈佐原4丁目7番1号 (電話) 072-692-3287

評価機関名	社会福祉法人 大阪府社会福祉協議会
所在地	大阪市中央区中寺1丁目1番54号 大阪社会福祉指導センター内
訪問調査日	平成 21年 12月 18日

【情報提供票より】(平成 21年 10月 15日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 13年 4月 1日		
ユニット数	1ユニット	利用定員数計	7人
職員数	9人	常勤	5人, 非常勤 4人, 常勤換算 7.1人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨ALC 造り		
	1階建ての	1階 ~	1階部分

(3) 利用料金等 (介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	34,500円	その他の経費(日額)	787円/1日
敷金	有() 無()		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(70,000円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	150円	昼食 400円
	夕食	400円	おやつ 150円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要 (平成 21年 10月 15日現在)

利用者人数	7名	男性	2名	女性	5名
要介護1	0名	要介護2	4名		
要介護3	2名	要介護4	1名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 90歳	最低	81歳	最高	97歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人祐生会 みどりヶ丘病院
---------	-----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

高槻市の北西部の高台にある、医療法人が運営する介護老人保健施設の敷地内に後から開設された、1ユニット7人の小規模なグループホームです。地域に母親が支えられた経験を持つ理事長が、専門的な認知症ケアに取り組みたいと考え開設しました。周辺には病院や福祉施設があり総合力や協力関係が期待できます。最近自治会の集会にも参加しています。自立支援と生活の質の向上を目指し、認知症介護指導者養成研修を履修している管理者の指導のもと、職員は「認知症」の人ではなく、認知症の「人」という専門的な視点を持ち、日々の生活を自由に楽しく暮らせるよう寄り添うケアを実践しています。とりわけ外出については、「利用者は自由に暮らすために自らリスクを負う権利がある」という考えのもと、家族や経営者の了解を得て、玄関に鍵を掛けない自由な外出を認めています。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連科目:外部4) 管理者・職員は評価の意義を理解しており、前回の外部評価結果を参考にし、サービスの質の向上に向けて改善に努めています。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 管理者は自己評価の項目を全職員に配布し、全員が各々書き込んだものを持ち寄り話し合っ自己評価を作成することで、全職員に周知しています。職員は自分達の仕事を求められているかを考え、再認識する機会ととらえ、評価を意義あるものとして理解しています。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6) 会議は利用者、家族、民生委員、自治会代表、地域包括支援センター職員の参加のもと、開催していますが、今年度はインフルエンザの感染予防のため参加者が少ない時もありました。ホームの現況報告や行事の予定報告を行い参加要請もします。5月には介護保険制度改正による費用加算について説明しています。インフルエンザ予防対策への協力も要請しています。参加者からは意見や要望を伺っています。今年度は年4回の開催となりましたが、来年度は2ヶ月に1回もしくは年6回以上開催できるように予定しています。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8) 家族の来訪時に利用者の現況報告をすると共に家族に意見・要望を聴きます。利用者の体調面、定期健診、物品購入、転倒等のトラブルなどは、随時電話で報告しています。意見箱や苦情の報告書の書式は備えていますが、これまで報告書に記載するような事例はありません。運営推進会議には利用者、家族の参加を得て、会議で意見・要望を聞く機会を持っています。
重点項目③	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 地域の自治会の集会に参加し、ホームの紹介や認知症への理解について話し、地域住民に協力を依頼しています。利用者は自由に散歩に出かけ、隣接している老健や、道路に沿って建つケアハウスの入居者の方々と顔見知りになります。食材や日用品の購入に利用するスーパーマーケットの店員とは馴染みの関係ができています。毎月ボランティアの来訪により習字・音楽療法・詩吟などを楽しみ交流を図ります。月2回介護相談員の訪問を受け、共にお茶を飲みながら会話を楽します。法人主催の夏祭りには家族も共に参加し、地域住民との交流を図ります。

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念として「私たちは真心の医療と福祉を通じて地域の人々に貢献します」をあげ、グループホームの理念として「ご利用者様がくつろげる環境作り、ご利用者様の一人一人を理解する心と体のケア」を揚げ、認知症があっても、一人ひとりが自由に生き活きとその人らしく、日常生活を過ごしてもらえよう支援しています。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	法人の理念とホームの理念は事務カウンター前の掲示板に表示しており、職員は理念について理解し共有しています。日々の業務申し送り時やミーティング時に管理者は思いを伝え、職員は思い込みを避け利用者が当りまえに暮らせるように寄り添うケアを実践しています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに務めている	地域の自治会の集会に参加し、ホームの紹介や認知症への理解について話し、地域住民に協力を依頼しています。利用者は自由に散歩へ出かけ、隣接している老健や、ケアハウスの入居者とも顔見知りになります。食材や日用品の買い物に行くスーパーマーケットの店員と馴染みの関係ができています。毎月地域のボランティアの来訪により習字・音楽療法・詩吟などを楽しむことができます。法人主催の夏祭りには家族も共に参加し、地域住民との交流を図っています。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者は自己評価の項目を職員全員に配布し、職員全員がそれぞれ書き込んだものを持ち寄り、話し合った上で提出分を作成しています。職員は自分達の仕事で何が求められているかを考え、再認識する機会ととらえ、評価を意義あるものとして理解しています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は利用者・家族・民生委員・自治会代表・地域包括支援センター職員の参加のもと開催していますが、今年度はインフルエンザの感染予防のため、少ない参加者での開催を余儀なくされることもありました。会議ではホームの現況や行事予定などを報告しており、5月には介護保険制度改正に伴う費用加算についての説明を行いました。参加者からは意見や要望を伺っています。今年度は4回の開催となります。	○	事業所の運営規程では開催回数は3ヶ月に1回以上と記載していますが、運営推進会議の規程では概ね2ヶ月に1回もしくは年に6回の開催することが求められています。運営規程の変更等を検討されてはいかがでしょうか。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会づくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	外部評価結果、運営推進会議議事録は市の担当者に届けています。市内の有志による「認知症の人と家族を支える会」を毎月開催しています。市の担当者とは会合の際に情報交換するなど協力関係にあります。月2回介護相談員の訪問を受けています。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族は少なくとも毎月1回の訪問はあり、来訪時に利用者の現状報告を行っています。利用者の体調面、定期受診、物品購入、転倒等のトラブルなどは、随時家族に電話で報告しています。利用者ほぼ全員が小口現金を自己管理しており、ホームは各利用者の毎月末現在の残高を確認・記録して家族に確認してもらいます。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の来訪時には利用者の現状報告をすると共に家族の意見・要望を聴き取っています。意見箱や苦情の報告書の書式は備えていますが、これまで報告書に記載するような事例はありません。運営推進会議には利用者、家族の参加を得て、会議で意見・要望を聴く機会をもっています。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者と職員は馴染み、信頼関係を保つことが重要と管理者は考えています。法人内の移動も抑え、今年は離職者もありませんでした。また、離職後も行事等のボランティアとして参加してもらい、親しみのある関係を保つなどの配慮をしています。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内研修は計画を立て「緊急時対応」「認知症」「感染症」などを含む6回以上の研修を実践しています。どの職員も参加でき、不参加者には伝達研修を行い資料提供しています。新任職員は法人での研修で基本的な知識を学び、ホームに配属されてからはOJT (On the Job Training) により認知症ケアに関わります。職員は学習によって「ゆとり」を持つことで、ケアに対する誇りが生まれるという管理者の方針のもと、職員の育成に取り組んでいます。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内の有志による「認知症の人と家族を支える会」を月1回開催し、他事業所や医療職種と連携を行い、認知症ケアに関する相談、指導を行っています。また、管理者は大阪府の認知症介護実践の指導者として「認知症介護実践研修」の実践者研修の受け入れや、「認知症グループホーム管理者研修」の場としてホームでの実習を受け入れ情報交換しています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	管理者は利用希望者の自宅に出向いて、面談しホームの見学を勧め、ホームでの食事や談話や散歩等の参加によって、他の利用者や職員をはじめ、ホームの環境にも馴染んでもらいます。また、入居前の面談や見学時の本人との会話の中で本人の思いや意向に気付くよう努め、記録しています。時間をかけて自宅にある馴染みの家具や品を持ち込む準備を促します。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者と共に過ごし、日々の関わりの中で利用者から学び、助け合うことを大切に、信頼関係を築いています。活花、料理、編み物、裁縫、習字など、それぞれ得意なことを自由にしてもらい、職員は寄り添って見守っています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者や家族の思いや意向は入居前から親しみのある関係作りで把握しています。ホームでは「好きなように暮らすことを支える」を目標にしていますので、特に一人ひとりの希望や意向の把握に全ての職員が取り組んでいます。そのため管理者は認知症に関わる専門的なチェック表を作成し、記録することによって職員が利用者を理解し、職員間で共有することを支援しています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居前および入居後も利用者のBPSD（認知症行動・心理症状）を把握し、ホームが独自に開発した様式を活用して、利用者一人ひとりに合った介護計画を作成しています。また、職員は統一したケアが行えるよう利用者毎の個別ファイル（カルテファイル）に転記し、周知しています。これにより、各利用者の認知症の中核症状（例えば記憶障害や判断力の障害など）とBPSD（例えば徘徊などの行動症状、妄想などの心理症状）を職員間で共有し、利用者の様々な行動の背景にまで着目した支援を可能にしています。なお、介護計画は家族に説明し、サインを得ています。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は必要に応じて見直しがなされています。ホームの特徴的なモニタリング（介護計画の評価・見直し）方法として、各利用者の介護計画に基づいて作成している個別評価用紙（「観察の注意点」、「今後のBPSD（認知症行動・心理症状）出現予測」、「モニタリング及び内容の検討と変更」、「認知症中核症状状況」、「IADL（日常生活関連動作）チェック表」等）に日々の気づきなどを記載し、利用者個々の状態に合ったケアを実践しています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援（事業所及び法人関連事業の多機能性の活用）					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	緊急時対応や家族が都合のつかない場合の通院支援を行っています。入居後ようやくホームの職員に馴染みができ落ち着いてきた利用者が、2日間の検査入院をすることになった際に、管理者が家族と共に病院に付き添うことで、不穏にならず、拘束・眠剤の服薬もなく常態を確保する支援ができた事例があります。また、管理者は地域住民からの認知症についての相談に対応しています。認知症実践者研修の実習生の受け入れもしています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援の協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療連携体制をとり、併設老健の看護師が相談にのっています。希望があれば入居前からの、かかりつけ医療機関への受診について希望を尊重した支援を行っています。併設の老健の施設長でもある医師の訪問を、午前・午後を受けることで、ホームの利用者は安心を得ています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期における看取り介護マニュアルを作成しています。必要な場合は利用者・家族と終末期生活支援に関する覚書を交わしています。利用者の身体状況に合わせて、家族・医師と話し合い終末期に向けての支援に繋げていく取り組みに努めています。最終的には入院を選びましたが、可能な限りホームでの生活を支援した事例があります。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員ミーティングや研修会の時にプライバシーを損なわない対応の徹底が図られています。入職時には個人情報に関する誓約書を提出しています。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	認知症があっても、自立した生活を目指し利用者一人ひとりが、日々自由に暮らしていることを実践しています。ホームの基本的な一日の流れはあり、生活のリズムを整える目安にしていますが、利用者一人ひとりのペースを大切に見守っています。起床がゆっくりの方は朝食の準備を自分で行っています。職員は見守りをしながら利用者本人の自由な生活を大切にして支援しています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は3食共ホーム内で調理しています。食材の購入、献立の選択、調理の下ごしらえ、盛り付け、配膳、後片付け等利用者それぞれが関われる場面には参加して、家庭と同様の食事支度の場面が展開しています。職員は全員同じテーブルに付き、同じ物を食べながら楽しく会話を交わしています。ご飯のお代わりを給仕する方、給湯ポットの傍に座り、お茶のお代わりを担当する方、それぞれ役割をもっており、職員はおもてなしを受ける側に廻って見守っています。食事の時間だけ、背もたれのない丸椅子に腰掛けて、背筋が真っ直ぐになることで、嚙下が楽になる工夫をしています。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	曜日、時間を問わず入浴したい時に、自由に入浴してもらうようにしています。浴室が判かりやすいように入り口には「ゆ」の、のれんを掛けてあり、「ゆっくり、のんびり、いい気持ち」とポスターが貼ってあり、介助する職員の示唆にも役立ちます。浴槽には富士山の絵が大きく描かれた壁面があり、銭湯や温泉気分を味わえます。入浴拒否される方には同性介助を行うなどの工夫をしています。立位が不安定な方は併設老健のリフト浴を利用して安全な入浴を支援しています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者それぞれの好きなこと、得意なことを入居前からの情報収集により把握して職員間で共有しています。活け花、編み物、縫い物、習字、スケッチ、料理、散歩等、日常生活の中での楽しみごとや気晴らしの支援をしています。また、入居後は日々利用者に寄り添い、思いを把握し、利用者のできることを、したいことを見つけ、献立を立てる、調理の下ごしらえ、配膳、片付け、洗濯物干しやたたみ等の作業に役割を持ってもらえるよう支援しています。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホームの玄関は日中には施錠していませんので、利用者は自由に一人で散歩に出かけます。職員は玄関チャイムで外出を察知しますが、要望があれば付き添います。ひとりで大丈夫になるまで(平均数ヶ月間)は集中的に見守りをしています。隣接する老健2階の喫茶室にも自由にひとりで出かけます。隣接の老健前の水槽で飼っている鯉を眺めるのが日課の方もいます。近隣の散歩時にはケアハウスの入居者や地域住民、特養や病院の職員が見守ってくれます。自分の日用品の買い物や食材の買い物には週2～3回職員の車で出かけます。季節毎にお花見ドライブや紅葉狩りに出かけます。外食にも出かけています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中玄関は施錠していません。以前はトラブルを恐れて施錠していた時期がありましたが、「利用者は自由に暮らすために自らリスクを負う権利がある」という考えのもと、閉じ込めないで一人ひとりが、自由に出入りできることが、認知症ケアには大切なことであると家族に説明し、了解を得て日中は開錠しています。ある利用者は入居3ヶ月後にはホームの場所が自分でわかるようになり、面会の家族を敷地外まで送って行く際もホームに戻ることができるようになりました。玄関前に犬の置物を外に置くことで、ホームの玄関を認識できて、ひとりでの散歩が可能になった利用者もいます。職員は離れたところから見守っています。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害対策マニュアルを作成し、年2回は併設老健と合同の消防・避難訓練を消防署の指導のもと行っています。避難訓練の実施に当たり事前に自治会へ報告し、協力をお願いしています。食料や水等の備蓄品は併設老健に保管していますが、今後は飲料水だけでも、ホームに1ケース(2L入り6本程度)は備えてはいかがでしょうか。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事・水分摂取量は食事毎に把握し、個別に記録しています。食事の献立表を1週間毎に併設老健の管理栄養士に示し、内容についてチェックを受け、アドバイスをもらっています。配膳カウンターに利用者毎の顔写真をA4サイズのパネルにして、ご飯や汁物の盛り付け量、摂取しやすい食事形態等を記してあり、職員全員が周知できるように工夫しています。(パネルの表示を好まない利用者1名の分は写真にしません)		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホームの玄関外にはベンチを置き、プランターの花を眺めることができます。広いリビングに続く食堂・台所はオープンキッチンになっており、利用者が流し台を自由に使えるようになっています。リビングにはゆったりとしたソファを設置し、その真ん中に電気の置ごたつを置き、利用者と職員はこたつに入ってゆっくりと過ごしています。一段高くした和室に最近、阿弥陀様をお祀りし、利用者はお参りやお供え物をします。編み物の得意な利用者が赤い毛糸のよだれかけを作り、掛けています。昔懐かしい大きな陶器の火鉢があり、練炭を起こして入れて、お餅を焼く等に活用しています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	83	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室は基準より広くゆったりとしています。立位が不安定な方の洗面台には手すりを付けてあります。利用者の馴染みの家具や仏壇、ぬいぐるみ等を家族と共に選んで、持ち込んでいます。ベッドやタンスの配置は、原則として本人・家族の希望に任せていますが、夜間目覚めた時にトイレに行けなかった利用者の原因を究明するため、管理者が実際にベッドで寝起きして、ベッドから出入り口のドアが死角になっていたことを発見し、利用者・家族の同意を得て居室のレイアウトを変更するなど、居心地よく過ごせるよう専門的な知見から各々の症状に合わせて支援しています。入居により家族の顔や名前を忘れかけている方には、家族の集合写真を大きく引き伸ばし、子どもや孫の名前を書いて壁に貼って、いつも見られるようにしています。</p>		